

食を大切にできる児童の育成
～社会科学習（戦争単元学習）と食教育の連携を通して～

1 設定理由

本学区は「ちはら台」と呼ばれ、新興住宅地であり、現在も新しい家が次々と建てられている。本校である市原市立清水谷小学校も創立 24 年目の新しい学校である。新興住宅地という地域の特色から、市内の他地域に比べ農業に従事する人が少なく、児童は食の生産に触れることなく過ごしている。このことが影響してか、児童は食の大切さに気づけていない。そのため、本校児童は給食の残飯や好き嫌いが多く、味つけが舌にあわないと当たり前のように残す児童もいる。

そこで、毎日十分な量の食事をとれることは、大変恵まれていることであると児童に気づかせたいと考えた。その手立てとして、6 年生の社会科単元の 1 つである「長く続いた戦争と人々の暮らし」の学習を通して、戦時中の食生活と現在の学校給食を比べる活動などを行う。日々の食教育に加え、社会科学習と食教育を連携させることにより、食を大切にできる児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

《仮説 1》 戦時中の食生活を知り、現在の食生活と比べる活動を取り入れることで、児童は食を大切にできるようになるであろう。

《仮説 2》 疎開先の献立例をもとに、戦時中の食事を作り、食べる活動を取り入れることで、児童は食を大切にできるようになるであろう。

3 研究方法

① 6 年生の社会科単元「長く続いた戦争と人々の暮らし」の学習を通して、当時の国民が戦時体制で食事を制限されていたことを知る。

② 当時の食生活と現在の食生活を比べることを通して、食事の量や種類、摂取カロリーに大きな差があることに気づく。

③ 疎開先の献立例をもとに、戦時中の食事を作り、食べる活動を取り入れることで、当時の食生活を実感し、食の大切さに気づく。

4 結論

○ 戦時中の国民の食事が制限されていたことを知り、自分たちの食生活が恵まれていることに気づくことができた。

○ 疎開先の献立例をもとに、戦時中の食事を作り、食べてみることで、自分たちの食生活が恵まれていることに気づくことができた。

○ 給食の完食人数が、「長く続いた戦争と人々の暮らし」の学習後に増加したことから、児童は食を大切にすることができるようになった。

1 研究主題

食を大切にできる児童の育成 ～社会科学習（戦争単元学習）と食教育の連携を通して～

2 主題設定の理由

本学区は「ちはら台」と呼ばれ、新興住宅地であり、現在も新しい家が次々と建てられている。本校である市原市立清水谷小学校も創立24年目の新しい学校である。新興住宅地という地域の特色から、市内の他地域に比べ農業に従事する人が少なく、児童は食の生産に触れることなく過ごしている。このことが影響してか、児童は食の大切さに気づけていない。そのため、本校児童は給食の残飯や好き嫌が多く、味つけが舌にあわないと当たり前のように残す児童もいる。

私は現在6年生を担当しているが、日々給食を残す児童が多いことに頭を悩ませている。6年生といえば、成長期の真っ盛りで、必要な摂取カロリーも増え、栄養をバランスよくとらないといけない時期である。しかしながら、完食する児童は少数で、多くの児童は給食の好きなメニューだけ食べ、嫌いなメニューは一口も手につけない。また、すぐ満腹になり、必要な量をしっかりと食べられない児童も多い。この食の傾向は6学年だけでなく、全校の課題として挙げられている。

本校としては、給食指導年間計画を立て、栄養士の先生を招き、食育講座を児童に受けさせるなど、全校で食教育にとりくんでいる。しかし、なかなか効果があがらないのが実情である。

そこで、従来の食教育に加え、6年生の社会科単元の1つである「長く続いた戦争と人々」の学習を通して、食の大切さに気づかせることができないかと考えた。「長く続いた戦争と人々」は、満州事変から日中戦争、太平洋戦争、そして終戦までの通史を学習する単元であるが、その中に戦時中の国民生活を学ぶ時間がある。この時間では、戦時体制の中で、国民生活が戦争のために制限されていたことを学ぶ。特に食事は大きく制限され、配給制によって決められた量の食事しかとれず、1日の献立は朝、昼、夕とほぼ一緒、さらに1週間の献立もほとんど変化がないことを知る。12歳の子どもは必要な摂取カロリーをとれず、戦時中の子ども平均身長が現在と比べるととても低いことがわかる。これらのことを学ぶことは、食の大切さを気づかせるのによい手立てではないかと考えた。また、他教科と連携して食教育をすることにも大きな価値があると考えた。

以上の理由から、社会科学習と食教育を連携させることで、児童に食の大切さに気づかせたいと考え、本主題を設定した。

3 主題について

「食を大切にできる児童」とは、本研究では「学校給食を完食できる児童」ととらえる。児童の好き嫌い、味の好み、満腹感に関わらず、学校給食で配膳される一人分の量を完食することが大切であると考えた。しかしながら、アレルギーで食べられないメニューがある場合は、そのメニュー以外を完食できていればよいとする。

4 研究目標

6年生の社会科単元「長く続いた戦争と人々の暮らし」の学習を通して、戦時中の国民の食事が、戦時体制で制限されていたことを知り、その上で、当時の食生活と現在の食生活を比べることを通して、食事の量や種類、摂取カロリーに大きな差があることに気づかせることが、児童が食を大切にできるようになるために有効であることを明らかにする。

5 研究仮説

《仮説1》

戦時中の食生活を知り、現在の食生活と比べる活動を取り入れることで、児童は食を大切にできるようになるであろう。

《仮説2》

疎開先の献立例をもとに、戦時中の食事を作り、食べる活動を取り入れることで、児童は食を大切にできるようになるであろう。

6 研究実践

時配	学習内容と活動	評価規準	資料
1	○世界文化遺産の写真を並べ、原爆ドームの写真が世界文化遺産である理由を調べる。 なぜ、原爆ドームは世界文化遺産に登録されたのだろうか。	◎原爆ドームが世界文化遺産である理由を、資料を使って考え、表現している。 【思考・判断・表現】(発言・ノート)	・原爆ドームの写真 ・その他の世界文化遺産の写真
1	○満州事変、日中戦争を起こした理由や戦争の広がりについて調べる。 なぜ、日本は勢力を拡大させていったのだろうか。	◎地図や年表、その他の資料を活用して、中国との戦争がどのような戦争だったのかについて、必要な情報を読み取っている。 【技能】(発言・ノート)	・日本の勢力範囲図①

1	○さらなる日本の戦争の広がり調べ。 ◎戦場となったアジア・太平洋の地域について地図やその他の資料を活用して、日本の戦争の広がりについて必要な情報を読み取っている。 【技能】(発言・ノート) なぜ、日本の戦争はさらに拡大したのだろうか。	◎戦場となったアジア・太平洋の地域について地図やその他の資料を活用して、日本の戦争の広がりについて必要な情報を読み取っている。 【技能】(発言・ノート)	・日本の勢力範囲図②
1	○小学校6年生の平均身長について調べる。 なぜ、1946年の小学6年生の平均身長が下がっているのだろうか。 ○戦争中の食生活について調べる。 ○資料から、農業や水産業の生産量が減り、配給制の食事では栄養不足だったことを読み取る。 ○戦時体制で、国民の生活は戦争のために制限されていたことを知り、食事が不十分であったことを理解する。	◎戦争中の食生活について、資料を活用して調べたことを整理してノートにまとめている。 【技能】(発言・ノート)	・小学校6年生の平均身長 ・各産物の生産量 ・配給制の写真 ・当時の献立例 ・当時と現在の一回分の学校給食(実物)
1	○疎開先の献立例をもとに、戦時中の食事を作る。 疎開先の献立例をもとに、戦時中の食事を作って食べてみよう。 ○疎開先の献立例を確認する。 ・ごはん(玄米) ・みそ汁(大根) ・漬け物(かぶ) ○安全に気をつけて調理する。 ○作った戦時中の食事を食べる。 ○現在の給食と食べた戦時中の食事を比べて、振り返りを行う。	◎現在の給食と戦時中の食事を比べて、食生活の差に気づくことができる。 【思考・判断・表現】(ノート)	・疎開先の献立例
1	○東京大空襲の想像図、空襲の写真、空襲を受けた都市の地図などを調べる。		・東京大空襲の想像図

	なぜ、多くの国民が戦争に巻き込まれたのだろうか。 ○戦争体験者の話を動画で聞き、空襲の被害について自分の考えをまとめる。	◎戦時体制が強化される一方で、本土空襲が始まり、国民に大きな被害が及んだことがわかる。 【知識・理解】（ノート）	・空襲の写真 ・空襲を受けた都市の地図
1	○戦争がどのようにして終わったのかを調べる。 ○玉音放送を聞いて、わかったことや考えたことを話し合う。	◎戦争によって、国民が大きな被害を受けたことや、戦場になったアジアや太平洋地域に大きな損害を与えたことがわかっている。 【知識・理解】（ノート）	・玉音放送 ・玉音放送原文
	なぜ、玉音放送を聞いて泣きぐずれている人がいるのだろうか。		
1	○単元を通して、戦争について感じたことや考えたことをノートにまとめる。	○これまで調べたことを総合し、戦争がもたらす被害の大きさについて考え、自分の考えをまとめている。 【思考・判断・表現】（ノート）	
	戦争についての自分の考えをノートにまとめよう。		

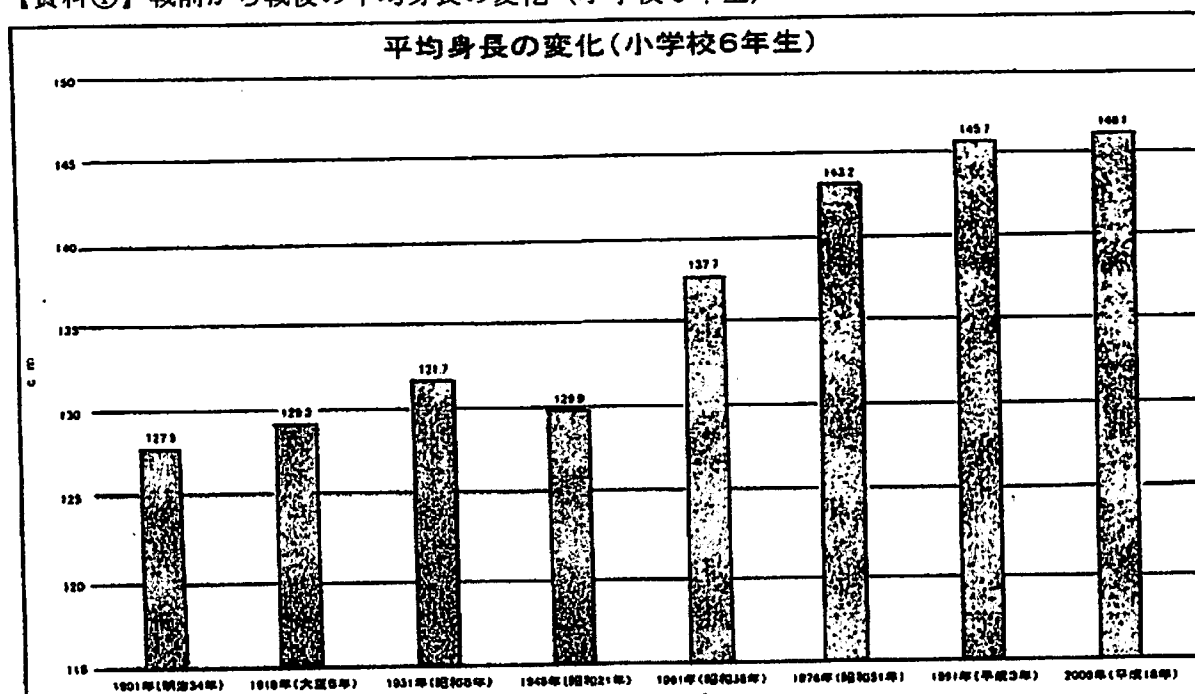
7 仮説の検証と授業の実際

《仮説1》
戦時中の食生活を知り、現在の食生活と比べる活動を取り入れることで、児童は食を大切にできるようになるであろう。

手立て① 戦前から戦後の平均身長の変化（小学校6年生）を読みとることで、戦時中の小学校6年生の平均身長が下がっていることに気づく。

戦前から戦後の平均身長の変化（小学校6年生）【資料①】を読みとることで、1944年の小学校6年生の平均身長が下がっていることに気づかせる。そこで、なぜ戦時中の小学校6年生の平均身長が下がっているのかについて疑問を持たせることで、戦時中の食生活がどうなっていたのか調べることにつなげていく。

【資料①】 戦前から戦後の平均身長の変化（小学校6年生）



【児童の発言】

なぜ平均身長は順調に伸びているのに、1944年だけ平均身長が低くなっているんだろう。

平均身長が1944年だけ低くなっているのは、戦争中で十分な食事がとれなかったからだと思う。

戦前から戦後の平均身長の変化【資料①】を見せることで、1944年の小学校6年生の身長が下がっていることに児童は気づいた。「なぜ下がったのだろうか。」と問いかけると、戦時中で食事がたりていなかったのではないかという声がたくさんあがった。この発言から先の展開につなげることができた。

手立て② 4つの資料『必要食事摂取量と当時の食事摂取量（カロリー）』・『農業、水産業および工業の生産指数の変化』・『配給制を受ける人々』・『当時の献立例』を読み取り、戦時中の食事が不十分だったことに気づく。

【資料①】を見たことで生じた疑問を解決するための資料として、新たに4つの資料を提示した。この4つの資料を読みとることで、客観的に戦時中の国民の食生活が制限されていたことに気づかせる。

【資料②】疎開先での献立例

	朝	昼	夕
9月22日	ごはん▼ ふき	ごはん みそしる	おじや みそしる
23日	ごはん▼ みそしる	ごはん ふき	おじや▼ ふき
24日	ごはん▼ みそしる	あじごはん▼	ごはん▼ かつお
25日	ごはん▼ みそしる	ごはん▼	ごはん▼ にしん
26日	ごはん▼ みそしる	ごはん▼	ごはん▼ みそしる

④⑥疎開先での食事の例
(▼は量が少なかったとき)

5日間ほとんど同じ献立になっていて、量も少ない。自分だったらあきちゃう。

【児童の発言】

ほとんどおかずがなくて、みそ汁には具が全然入っていない。これじゃお腹がへっちゃう。

【資料③】疎開先での食事の例

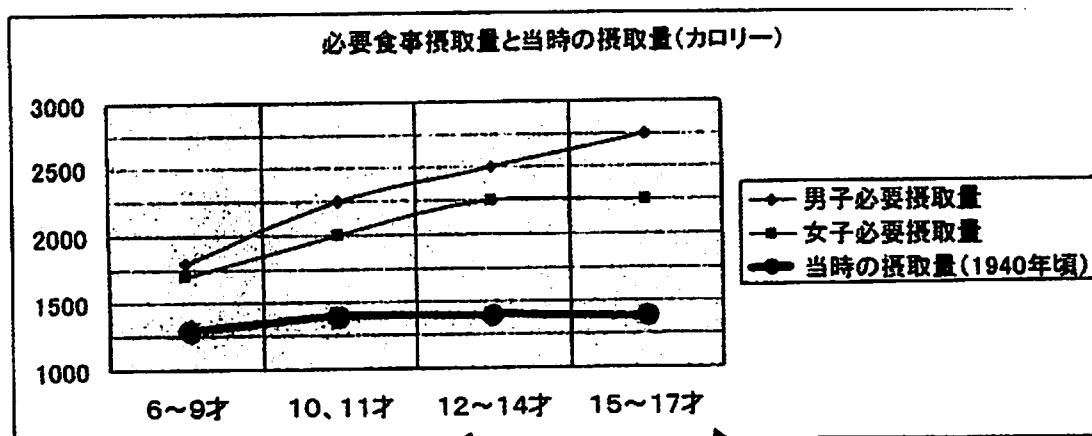
●^{そかい}疎開先での食事の例

ごはん、
みそしる(大根)、
漬物(かぶ)

ごはん、
にもの(さつまいも)、
漬物(かぶ)

そうすい(だんご、
さつまいも、かぶ)

【資料④】必要食事摂取量と当時の摂取量(カロリー)

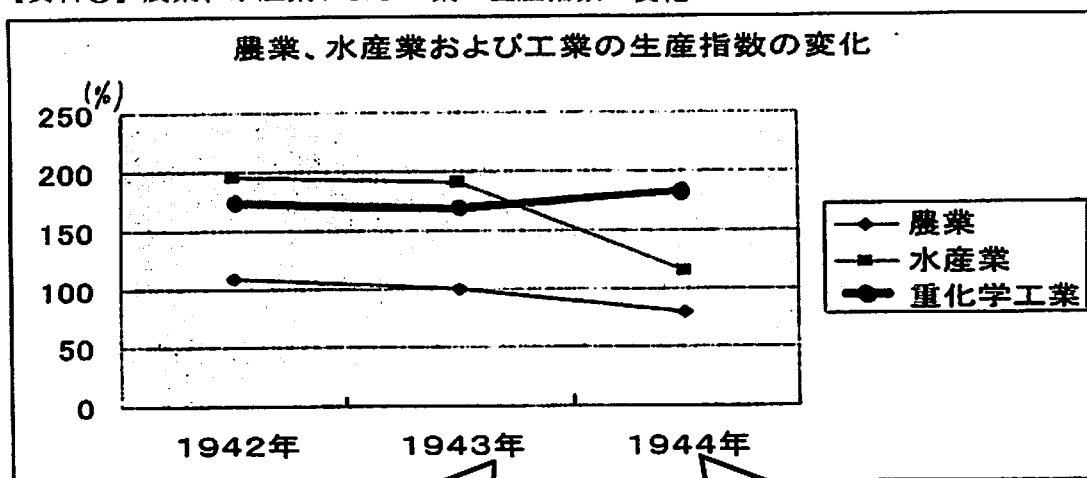


【児童の発言】

摂取カロリーがたりていない。栄養が全然たりていないことがわかるよ。

たりていないカロリーが500kcal以上もある。これじゃ身長が伸びないよね。

【資料⑤】農業、水産業および工業の生産指数の変化



1944 年になると農業と水産業の生産がさがっていることがわかる。なぜ下がったんだろう。

農業と水産業の生産がさがっているということは、食料不足になってしまう。

4つの資料を読みとることで、客観的に戦時中の国民の食生活が苦しかったことを理解できた。

特に献立表は児童に身近なものであるため、自分たちがいつも見ている給食献立表との違いに驚いていた。また、疎開先の献立例からは、おかずの少なさに驚きの声があがった。一食がこの量だとお腹が満たされないことにも気づくことができた。また教師の補足説明で、ごはんは白米でなく玄米だったことも知った。さらに摂取カロリーの資料を読みとることで、栄養が不足していることを実感できた。

農業、水産業および工業の生産指数の資料では、1944年に農業と水産業の生産指数が下がっていることに気づいた。そのことから農作物や魚介類が不足していることに気づくことができた。児童から、なぜ生産指数が下がったのかという声があがったので、農業や水産業に従事する人が戦地に行ってしまったことや農具や船まで戦争に使用されていることを説明した。

【仮説1の検証】

【児童の振り返りより】

戦時中の人々のくらしがとても貧しいことがわかった。当時は食べ物が貴重で、自分が配給制だったらがまんできなかったと思う。

集団疎開の食事の写真を見ると、小さい女の子が少ない量の食事でもありがたそうに食べようとしていて、すごいと思った。

戦争の時の食事は、思っていたよりも少なくてびっくりした。今だとお腹いっぱい食べることができるのでめぐまれていると感じた。

日本人みんなが戦争のためにがまんしていたことがわかった。少ない食事ではがまんしていたことがわかって、給食を残さないようにしようと思った。

授業の終わりに、児童全員に振り返りを書かせた。振り返りの内容を検証すると、戦時中の食生活に関わる記述が見られた。その中で、上記の振り返りの下線部にあるような「食の大切

さ」について記述している児童が27人中17人いたことから、仮説1及びその手立ては、児童に食の大切さを気づかせるのに有効だとわかった。

【資料⑥】配給制



【資料⑦】戦時中のまちの看板



【資料⑧】集団疎開の様子



【資料⑨】授業の様子



《仮説2》

疎開先の献立例をもとに、戦時中の食事を作り、食べる活動を取り入れることで、児童は食を大切にできるようになるであろう。

手立て① 疎開先での献立例をもとに、前時中の食事を作り、その料理を食べてみる。

前時の学習で、戦時中の国民の食事が制限され、栄養が不十分だったことを理解することができた。しかしその理解をより実感を伴ったものにするために、疎開先での献立例をもとに、戦時中の食事を調理実習として作ってみる。そして作った料理を実際に食べることで、より食の大切さを実感できると考える。

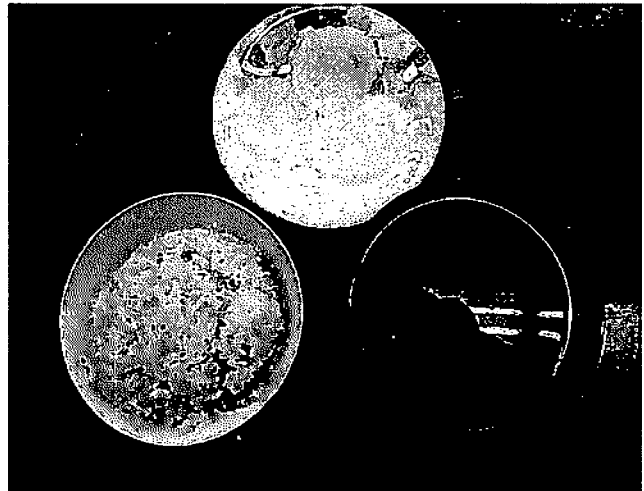
【資料⑩】疎開先の献立例をもとに作る戦時中の食事

・ ごはん（玄米） ・ みそ汁（具は大根のみ） ・ かぶの漬け物

【資料⑪】調理の様子



【資料⑫】できあがった料理



疎開先での献立例をもとに、戦時中の食事を調理した。児童は調理実習を楽しんでいる様子であった。調理をしながら、「みそ汁の具が少ない。」「玄米が変な色でおいしそうじゃない。」「おかずが漬け物だけだとたりない。」などの声があがっていた。

できあがった料理を食べてみると、「おいしい。」という声がたくさんあがったが、その一方で、量や種類が少ないという感想が多く出た。

【仮説2の検証】

【児童の振り返りより】

戦時中の食事を作って食べてみたら、けっこうおいしかったけど、みそ汁の具が少なすぎてお腹がいっぱいにならなかった。

玄米はたくののに時間がかかった。味はおいしかったけど、おかずは大根のつけものだけだったからごはんがすすまなかった。

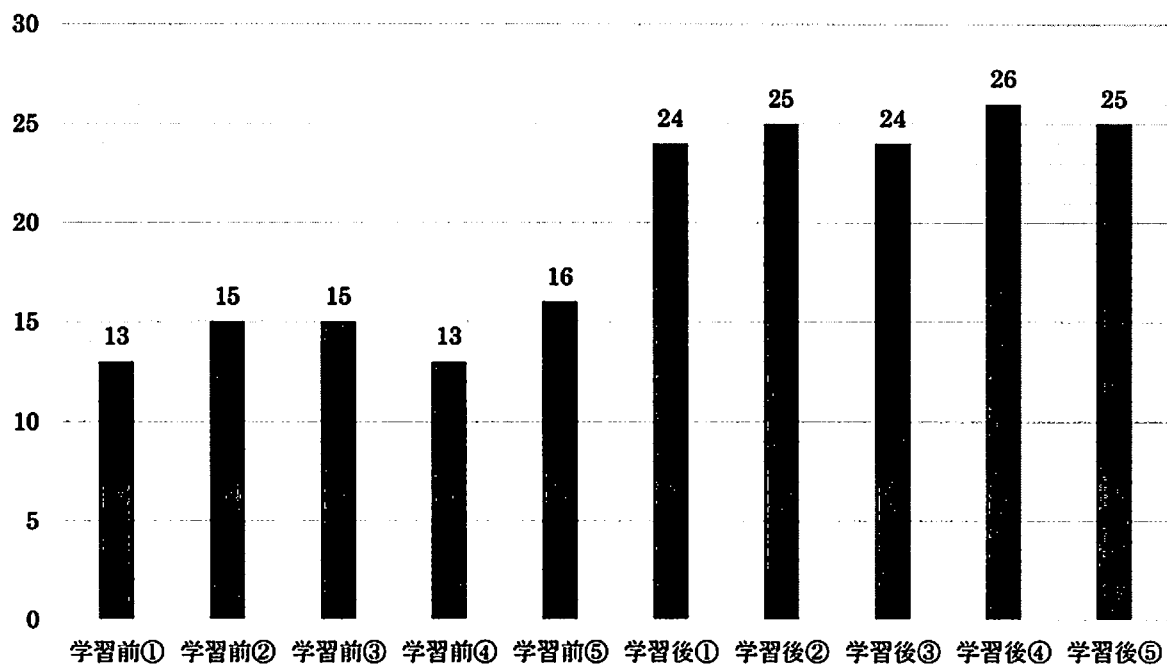
やっぱり今の自分たちが食べている給食とくらべると、量がぜんぜんたりないことがわかった。給食はこんだてが毎日ちがってすごいと思った。

勉強していたからわかってはいたけど、実さいに食べてみたらやっぱり量が少なかった。給食がおいしくて栄養がたくさんあることがあらためてわかった。

料理を食べ終わった後に、児童全員に振り返りを書かせた。振り返りの内容を検証すると、学校給食に関わる記述が見られた。その中で、上記の振り返りの下線部にあるような「食の大切さ」について記述している児童が27人中20人いたことから、仮説2及びその手立ては、児童に食の大切さを気づかせるのに有効だとわかった。

また、仮説1、2の検証として、「長い戦争と人々の暮らし」の学習前と学習後において、本学級児童の完食数がどう変化したのかを調べた。

給食を完食した児童数



上のグラフから、「長い戦争と人々の暮らし」の学習前①～⑤（5日分）と学習後①～⑤（5日分）を比べてみると、学習後に給食を完食する児童が増えたことがわかる。

仮説1の手立てで、戦時中の食生活が制限されていたことを知り、現在の食生活が恵まれていることに気づいた。さらに仮説2の手立てで、戦時中の食事を自分たちで調理して食べてみることで、現在の学校給食の量が十分で、味や栄養がよく考えられて作られていることを実感した。仮説1、2の手立てによって、児童の意識が変わり、行動にも変化が生じた。

このことから、仮説1、2及びその手立ては、児童に食の大切さを気づかせるのに有効だとわかった。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

○社会科単元の1つである「長い戦争と人々の暮らし」の学習を通して、戦時中の国民の食生活が不十分であることを知ることで、児童は食の大切さに気づくことができた。

○疎開先での献立例から、戦時中の食事を実際に作って食べてみることで、戦時中の食生活を疑似体験することができ、毎日十分な量や種類の食事をとることができている現在の食生活が恵まれていることだと実感することができた。

○日々の食教育に加え、他教科と連携して食教育を行うことは、より効果的であった。

●本実践を行っても、給食を完食できない児童がいたので、継続して食教育を行っていくことが必要である。

食を大切にできる児童の育成
～社会科学習（戦争単元学習）と食教育の連携を通して～

資料編

【資料①】「長い戦争と人々の暮らし」の指導案

本時の指導

(1) 本時の目標と評価規準

目標 戦争中の国民生活の様子を資料から読み取ることができる。【技能】(発言・ノート)

(評価規準 戦争中の生活の様子について、資料を活用して調べたことをノートに整理してまとめている。)

(2) 展開

過程	学習活動	形態	指導上の留意点 (○) と評価 (◎)	備考
見出す (10)	1 前時の復習をする。	一斉	○1941年に日本軍がイギリス軍やアメリカ軍を攻撃し、太平洋戦争に突入したことや国民は「正しい戦争」を信じて協力したことを伝える。	『小学校6年生の平均身長』
	2 『戦前から戦後の平均身長の変化 (小学校6年生)』を見て、1946年の平均身長を予想する。	個別 一斉	○1946年の身長を隠しておき予想させる。その際に、予想する理由も答えさせる。 ○終戦後1年であることから、戦中の何らかの影響が関わっていることを知らせる。	
	3 学習問題を考える。	一斉	○1946年の身長だけ下がっている事実から、「なぜ」という学習問題を作成する。	
	なぜ、1946年の小学校6年生の平均身長が下がっているのだろう。			
調べる (20)	4 4つの資料『必要食事摂取量と当時の食事摂取量 (カロリー)』・『農業、水産業、工業の生産指数の変化』・『配給制を受ける人々』・『当時の献立例』を読み取り、わかったことをノートにまとめ発表する。	個別 一斉	○『必要食事摂取量と当時の食事摂取量 (カロリー)』から、当時の子ども達は栄養が足りていなかったことに気づかせる。 ○『農業、水産業、工業の生産指数の変化』から、農業と水産業の生産が減り、工業の生産が増えていることに気づかせる。 さらに以下の3点についても児童が気づけるように発問を行う。 ①工業＝戦争のための兵器をつくるということ。	『必要食事摂取量と当時の食事摂取量(カロリー)』 『農業、水産業、工業の生産指数の変化』 『配給制』

			②農業＝農業従事者が戦争に出征しているためにいないということ。 ③水産業＝漁に使われる船が軍事目的に転用されたということ。 ○『配給制を受ける人々』から、配給制という用語を確認するとともに、当時は一定の量しか食べることができなかったことに気づかせる。 ○『当時の食事例』から、どんな食べ物をどれくらいの量食べていたかを気づかせる。	を受ける人々』 『当時の食事例』
	5 当時の学校給食と現在の学校給食の実物を見比べて、感じたことを発表する。	一斉	○当時と現在の学校給食を見せることで、当時の食事の量や食材が少ないことに実感をもたせる。	当時と現在の学校給食の実物
深める (10)	6 資料から読み取ったことをノートに整理してまとめ、発表する。	個別 一斉	◎戦時中の国民生活の様子がわかり、ノートにまとめることができる。 【技能】(発言・ノート)	
まとめる (5)	7 各自で平均身長が下がった理由をまとめとして書く。	個別 一斉	○以下のキーワードを使って、まとめの内容を考えさせる。 ・生産量 ・配給制 ・栄養	
	8 次時の学習内容を知る。	一斉		

(3) 板書計画

